

## ベニイトトンボ神戸市須磨区内での新産地

山本 勝也, 三木 巴月, 三木 裕月

ベニイトトンボ (*Ceragrion nipponicum* Asahina) は環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 種の貴重なトンボ類である。また、兵庫県版レッドデータブック 2003, 神戸版レッドデータ 2010, 共に A ランク種であり, 守りたい神戸の生きもの百選にも選定されている。

本種は平地から丘陵地の水生植物が茂り, 周囲に木陰のあるような古い池沼の環境を好むという。兵庫県または近隣では京都盆地, 奈良盆地, 大阪平野, 神戸市近辺での記録があるが, 神戸市や明石市以西の, より好条件と思われる播磨平野には記録がない (二宗誠治氏談) ことや, 市街地のビオトープで突然に発生するなど, 生態の不明な点がある, 謎の多いトンボである。

今回, 神戸市須磨区旧市街地の池にて本種が採集され, 新産地と思われるので, ここに報告する。

1 ♂, 神戸市須磨区須磨寺町堂谷池, 25. VII. 2011, 三木巴月・三木裕月採集・標本保管

1 ♂, 神戸市須磨区須磨寺町堂谷池, 30. VII. 2011, 三木巴月・三木裕月採集・標本保管

三木兄弟は, 2011 年の夏休みの課題に, 自分たちの住む須磨寺旧市街地地域の昆虫採集に取り組み, その際に自宅からほど近い, 堂谷池 (どうやいけ: 通称, 須磨寺大池) にて本種を採集した。この標本を含む採集成果は, 2011 年 9 月 10 日～19 日, 神戸市立青少年科学館にて開催された, 第 56 回神戸市立小学校理科・生活作品展に出品, 展示された。また, 2011 年 9 月 7 日の神戸新聞朝刊紙上にも紹介された。

本種の採集地, 堂谷池は環境省特定外来種, オオフサモ (別名, スマフサモ) の国内初発見地とされている。1921 年 11 月 8 日, 植物研究の大家である牧野富太郎博士が, “須磨寺の池”(堂谷池である: 白岩卓巳先生談) にて採集したという記録があり, 1922 年に博士ご自身がスマフサモとして記載発表された。のちに南米からの移入種, オオフサモであることが判明し, 記載を取り消されたという経緯を持つ。

堂谷池は当時より, 海外のものが移入するほどの, 人の生活活動の影響を受けやすい市街地の池であったことがうかがえる。現在でも, オオフサモ, ボタンウキクサ, ホテイアオイ, ブラックバス, ブルーギル, ミシシippアカミミガメなどの多くの移入動植物がみられる。

2011 年度, 神戸市立須磨海浜水族園の淡水カメ類調査により, 当, 堂谷池にて, ペット飼育放棄され, 大量に自然繁殖していたミシシippアカミミガメの駆除作業が行われた。以前よりこの池で, ベニイトトンボが見られていた記録はなく, 近隣に住む筆者も本種を見かけた

記憶がない。今回のような移入外来種の駆除が, 本種の発生につながった可能性もあると思われる。また, ベニイトトンボは水草の移植により, 今まで確認されていなかった池から発生する例がしばしばある, と書かれている。このような移入の可能性もあるが, 本池より一番近いベニイトトンボの発生地は直線距離で約 2km ほどであるので, 自然分散の可能性もあると思われる。

本件とは別件で, 同じ須磨区内で, ベニイトトンボと思われる未報告記録があるので, ここに書き留める。須磨区板宿町育英幼稚園内ビオトープにて 2010 年 8 月 20 日, 蓮池小学校生, たかがきよしはる君が採集, 標本保管, 筆者, 山本確認の記録がある。この記録は, ベニイトトンボと近似種で, 近年, 神奈川県横浜市 (2007 年) 東京都新宿区 (2010 年) の関東方面への移入が確認されているリュウキュウベニイトトンボの可能性もあるので, 参考記録としたい。

最後に, この稿を書くにあたり, 本種の同定をお願いした二宗誠治氏, 堂谷池の植生でご指導いただいた白岩卓巳先生, 各種のデータをご教示いただいた谷素彦氏, 佐藤邦夫氏に深くお礼申し上げる。

## ○参考文献

- 山本哲央・宮崎俊行・西浦信明・新村捷介, 2009. 近畿のトンボ図鑑. ミナミヤンマクラブ  
青木典司, 1998. 神戸のトンボ. 神戸市スポーツ教育公社  
中西康介, 2011. 東京都新宿区でリュウキュウベニイトトンボを採集. 月刊むし, 486:  
白岩卓巳, 2008. 牧野富太郎と神戸. 神戸新聞総合出版センター

(Katsuya YAMAMOTO 神戸市須磨区)

(Hazuki MIKI 神戸市須磨区)

(Yuzuki MIKI 神戸市須磨区)